

## 平成27年度第1回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成27年4月28日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 桑原 安江, 大森 憲, 位高 光司, 山本 壯太,  
能見 伸八郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 平成27年度地方独立行政法人京都市立病院機構補正予算について

原案のとおり承認された。

- 先日、利用者の立場で救急車に乗った。とりわけ、救急車の振動が気になった。京北地域における搬送でも乗り心地のよいものにしてほしい。
  - ・ 今回京北病院に寄付をしてくださった方からも、京北病院の救急車の乗り心地が悪いという意見が出ていた。京北病院の救急車は17年間使用しているが、実際運転してみると振動が強く、乗り心地が悪い。今回頂戴した寄付金を活用して救急車の整備に努めたい。
- 今回の寄付はどのような手続きを経てなされたのか。また、直接なのか、それとも何らかの機関等を媒介したのか。
  - ・ 本人から寄付申出書の提出をいただき、意思確認を行ったうえで、直接寄付金を受領した。
- 訪問診療車は車中に診療設備を備えた車両なのか。
  - ・ 小型車両を予定している。車中に診療設備を備えた車両ではなく、訪問診療に出向くスタッフを輸送するための車両である。

### 3 報告等

#### (1) 地方独立行政法人京都市立病院機構の組織及び事務分掌規程の改正について

- 小児科神経部長の廃止はどのような経緯か。
  - ・ 小児科部長が理事（副院長）に昇任し、小児科部長の後任に小児科神経部長が充てられたもの。なお、小児神経の診療は従前と変わらず行う。
- 【補足説明】京北病院の医療体制について
  - ・ 副院長の増員について、市立病院で勤務していた内科医が京北病院副院長に就任。また内科部長について、京北在住で嘱託医師を務めていた者を常勤医師として採用。
  - ・ 市立病院から京北病院への支援（応援）体制を一層強化したい。適材適所でやっていきたい。
- 病院にとって「清潔さ」は重要であり、信頼のベースである。施設管理を担っている管理運営課には業務をしっかりと勤めていただきたい。外来に設置されている冷水器が壊れていた。このようなことが二度とないようにしてもらいたい。
  - ・ 清掃業務などの施設運営関連業務は、PFI事業の一環であるが、施設全体の管理を一元的に行うために管理運営課を設置した。SPCと協働してより一層、市民（患者）に対する医療サービスの向上に努めたい。

## (2) 経営状況月次（3月分）及び第4四半期報告

- 3頁の資料によると、市立病院の26年度収益が増加しているが、これは新館効果によるものなのか。診療報酬改定よりも、新館効果で入院患者等が増えたことが原因か。
  - 25年3月に新北館を開院し、25年度は本館改修を行いながら診療を行っていたことから、稼働率が伸び悩んだ部分があった。しかしながら、新館・本館の整備が完了した昨年度は、夏以降稼働率が伸びてきている。
    - ・ なお、診療報酬改定の影響はあったが、利益面では、消費増税と相殺されていることから、診療報酬改定による影響は限定される。施設整備や医療機器の導入、救急患者や紹介患者の増加により、高度な治療・手術等の件数も増え、診療単価・収益の増加につながったものと考えている。
    - ・ 昨年は4月～6月に手術件数が落ち込み、夏から秋にかけて外科系の診療科を中心に件数が増えたものの、全体としては目標にわずかに届かない程度であった。また、がん患者に対する治療、すなわち、手術・放射線治療・化学療法等の伸びが思わしくなかった。
- 毎年4月～6月の収益が落ち込む傾向にあるのはなぜか。
  - 年度初めはスロースタートになる傾向がある。当院に限らず、他の病院においても人事異動やゴールデンウィーク等の影響によって、収益が伸び悩む傾向がある。本年度はこのような傾向を見越して、様々な手を講じている。
- 「年計表」を作成したらどうか。当月を含めた過去12ヶ月（1年間）の累計値を毎月表すものなので、傾向が見えやすくなる。
  - 検討してみたい。
- 収益は伸びたが、目標値に届いていない。年度計画目標をどのように設定しているのか。
  - 4年間の中期計画目標については既に達成している。単年度予算を組む場合には、余裕をもって支出を見積もることから、それに合わせた収入目標が設定されることになる。その結果、単年度で見ると目標値が高くなる傾向にある。
    - ・ 計画目標を達成することも重要であるが、単年度ごとに黒字を計上していくのが至上命題である。
- 京北病院の経営は順調か。不安材料はないか。
  - 独法化前は億単位の赤字だったことを考慮すると、順風満帆とまではいかないが、概ね順調だと考えている。
    - ・ 季節的要因もあろうが、年度前半と後半で差が大きい。
    - ・ 今年度から医師が増えたので、それに見合う収益を上げていく必要がある。
- 京北病院の広報活動は行っているのか。
  - 病院パンフレットを作成している。市民に選んでいただけるような病院になるよう、地域へのアピールに力を入れていく必要がある。

## (3) 平成26年度外来患者満足度調査結果について

- 総合受付でマスクを着用している女性スタッフがいる。感染症予防等の理由でマスクを着用しているのは理解できるが、利用者目線で見ると印象が悪い。
  - サービス向上委員会等でも議論があがっている。インフルエンザなど季節的要因がある場合はやむを得ないが、できる限りマスクは外すよう指導している。
    - ・ 委託業者についても徹底していきたい。また、受付フロアにも姿見を設置するなど、事前に身だしなみのチェックを行えるよう提案したい。
- 救急に係るアンケートを実施してはどうか。
  - 次回から取り入れたい。
- 3頁「当院を受診した理由」のうち、「広告等を見て（市民新聞など）」が0%となっている。もっと京都市に協力要請を行ったほうがよい。

4頁「当院のイメージ」という項目について、個人の感覚に基づくものであり、ここから何かを読み取って活用するというのは難しいのでは。回答者にとっても、漠然としており回答に戸惑うのではないか。またアンケート項目が非常に多く、回答者の負担が大きい。

→・ 市民しんぶん等を活用した広報活動も必要であると認識している。もっとも、市政全体での枠取りという形になり、新館設立のときは大きく紙面を割いていただいたが、経常的に紙面を取っていただくというのは難しい面がある。

・ 市民向けの病院PR誌「やすらぎ」を昨年度から作成しており、市役所・区役所等に配架している。現在は4,000部を発行している。

・ アンケート項目については精査したい。

○ PR誌はもっと部数を増やすべきだ。

○ 待ち時間を軽減するための仕組み、例えば、予約システムの導入などは行っていないのか。

→・ 現時点において、インターネット等で待ち時間を確認するシステムは導入していない。

・ 事務処理をスピーディに行うことによって、待ち時間の短縮についてさらに検討を進めていきたい。

○ クレジット決済の場合、スピーディに会計ができる。待ち時間を軽減するためのひとつの方策だと思う。

○ 5頁「再来院の希望」の項目について、「絶対に他病院を希望、2件」とあるが、どのような理由によるものか。

→・ この場で詳細は分かりかねるが、次回の理事会にでも詳細をお伝えしたい。受付での待ち時間、診療内容、応対方法など、様々な要因が考えられる。

・ 25年度の外来満足度調査において、ネガティブな評価を受けた項目について考えられる要因を検討し、改善するよう努めた。今年度についても同様の取り組みを進めていく。

#### 4 閉会

※ 終了後、ICU及び附帯施設（庭園等）の見学